

# ハートパル

2023年  
11月  
258号

## 毎年11月12日～25日は 「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。

女性に対する暴力は深刻な人権侵害です。暴力は、女性に恐怖と不安を与え、活動を束縛し、自信を失わせ、心身の健康に悪影響を及ぼし、時には死につながることもあります。また、女性の社会への参画を阻み、男女共同参画社会の実現を阻害するものです。私たち一人ひとりが女性に対する暴力を見逃さず、どのような理由があろうとも「暴力は絶対 NO!」と言える勇気をもつことが大切です。この期間に全国で実施される『パープル・ライトアップ』には、女性に対する暴力の根絶を呼びかけるとともに、被害者に対して「ひとりで悩まず、まずは相談してください。」というメッセージが込められています。大村市内でも毎年市役所をはじめ、新大村駅、大村公園などでパープル・ライト



アップを実施しています。より多くの方にこのメッセージが届けられるようにできるだけ多くの場所でライトアップされることを目指しています。

性暴力に  
関する相談  
キュアタイム  
QRコード



心を傷つけることも暴力です。ひとりで抱えず、最初の一步を。

DVや性暴力で悩んでいる方へ 年齢・性別を問わず、相談できます。

DV相談プラス QRコード  
#8891 #8103 #8008  
11月12日～25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。

叩いたり、蹴ったり、あなたの身体を傷つけることだけが暴力ではありません。

あなたがイヤだと思っているのに無理やりされる性的なことすべて暴力です。

これって普通なの？と思うこと、困っていること、モヤモヤしていること、何でも相談して下さい。

### 講演会



講師:ブルボンヌ さん  
男らしさ、女らしさより、  
自分らしさが社会を変える

～ジェンダー・性自認・性的指向とは～

11/23 (祝・木) 13:00 開場 13:30～15:00

プラザおおむらホール 定員130名  
(大村市本町326番地 1) (入場無料・先着・要事前申込)

★手話通訳・要約筆記 託児 (1歳～未就学児) あり

(女装パフォーマー/ライター)

早稲田大学在学中の1990年にゲイのパソコン通信ネットワークを設立。ゲイ雑誌『バディ』主幹編集者、女装パフォーマンス集団の主宰を経て、ライター、タレント活動を開始。NHK『阿佐ヶ谷アパートメント』、『ハートネットTVフクチッチ』、『ラジオ保健室』などテレビ・ラジオにレギュラー出演中。『オレンジページ』などの雑誌・WEB掲載・自治体や大学、企業でのジェンダーや多様性に関する講演、全国のLGBTイベントでの司会など多方面で活躍中。

申込締切 11/10:申込QR



### 講座



講師:中山 安彩美 さん  
あさみ

令和5年度  
花かんらんの会講座 第1回

思春期女子の  
こころとからだ

★女性の体や生理について、関心のある方  
(中高生や保護者の方) 大歓迎!

11/26 (日) 10:00～12:00 入場無料

プラットおおむら 4階 講座室  
定員 20名 (大村市本町 458 番地 2)

(性教育コミュニティ アスター共同代表)

長崎市内婦人科で看護師として勤務。思春期保健相談士、日本思春期学会認定性教育講師の資格のもと、長崎県内の小中高校や保護者、指導者向けに性に関する講話活動をしている。2021年から「長崎性教育コミュニティ アスター」を立ち上げ、長崎の地に包括的性教育が根付くよう地域活動を実施。

申込締切 11/22:申込QR



# 『国際男性デー』特集！ 男性の生きづらさを感じたことがありますか？

『国際男性デー』とは、毎年11月19日を男性の記念日とする日であり、1999年トリニダード・トバゴにて始まりました。コミュニティ、家族、結婚および育児に関して男性と男の子への差別に光を当て、その問題に取り組み、解決していくことを目標としており、男性・男の子の健康に目を向け、ジェンダー平等を促すものです。

一方、男性が優遇されていると言われる日本社会で、それでも今、男性が生きづらいという声が最近よく聞かれるようになったのは何故でしょうか？



考えてみよう！

「男だから×××してはいけない」

×××の中に何を思い浮かべますか？

- ・男だから泣いてはいけない。
- ・男だから弱音を吐いてはいけない。
- ・男だから〇〇歳までには結婚して妻と子供を養わなければいけない。

などを上げる人も多いでしょう。「男らしい男」を理想とする幻想が、この社会には厳然としてあります。

男性問題を考察する批評家の杉田俊介さんは、著書『非モテの品格～男にとって「弱さ」とは何か』の中でこう語っています。「男性問題とは男の弱さの問題であり、男の弱さとは自分自身の弱さを認められない弱さ。ねじれたややこしい弱さなのです」と。



## 「男らしさ」のプレッシャーは、誰から感じますか？

社会全体の風潮	54%
男性の直属の上司	23%
男性の同僚・知人・友人	10%
配偶者・パートナー	5%
その他	4%
女性の同僚・知人・友人	2%
女性の直属の上司	2%

資料:Lean In Tokyo 2022/11  
調査対象:性自認が男性の方:435名(20代~60代)

このように、男性は社会全体の風潮や同性の男性からプレッシャーを感じています。幼い頃から無意識下の刷り込みやメディア等の影響を受け、実は男性同士でプレッシャーを与え合うことが多いようです。

男性は小さい頃から強くなくてはならないと言い聞かされてきたばかりに、くじけそうな自分を他人に悟られないように生きてきたように思われます。



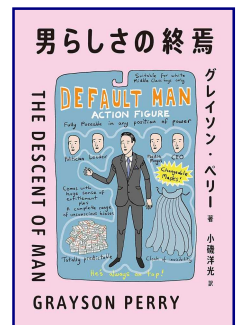
令和3年度、大村市男女共同参画推進事業講演会で講演してくださった清田隆之氏もコラム(東京新聞Web)において、「当人の性格や価値観の問題もあるけれど、実は長年ジェンダーとして植え付けられた影響も大きいと知りました。男性にジェンダーの話聞いてもらうのは本当に難しいと感じます。ただ、危機や難局を迎えた男性が失敗や挫折で苦しい時、漠然と抱いてきたつらさの原因に「男らしさの呪縛」が関係していることを知ると、感覚や価値観がひっくり返ることがあるようです」と解説しています。

清田 隆之氏  
文筆業、恋バナユニット「桃山商事」代表



イギリスの著者:グレイソン・ペリー氏は著書『男らしさの終焉』の中で、公平さが推進される現代は、「男性性」もゆっくり変わってきていると記し、男性の権利を提案しています。

- ・傷ついていい権利
- ・弱くなる権利
- ・間違える権利
- ・直感で動く権利
- ・わからないと言える権利
- ・気まぐれでいい権利
- ・柔軟でいる権利
- ・これらを恥ずかしくない権利



著者:グレイソン・ペリー(イギリス)  
フィルムアート社(2,000円+税)

★当センターに相談・イベント・講座などで来所され、大村市営東本町駐車場をご利用の場合は無料駐車券を発行します。

【問合せ先】

大村市男女共同参画推進センター「ハートパル」  
〒856-0832  
大村市本町 458 番地 2 プラットおおむら 4 階 (旧浜屋ビル)

TEL : 0957-54-8715 FAX : 0957-54-8700  
【問合せ時間】月～金 9時～17時(祝・年末年始休)  
Eメール: danjyo-s@city.omura.nagasaki.jp